

伊集院保健所感染症情報

2019年第51週（令和1年12月16日～令和1年12月22日）

【お問い合わせ先】 〒899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）
 TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp
 鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/index.html>

● 定点把握感染症

1 管内定点あたり報告数

定点医療機関【インフルエンザ6, 小児科4, 基幹定点1】

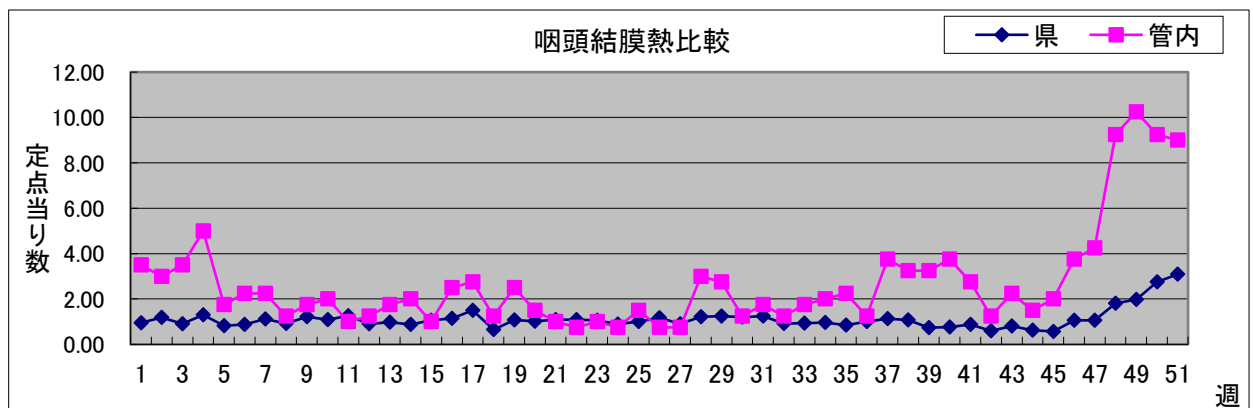
疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内				県		
	開始	終息	基準値	第48週	第49週	第50週	第51週	先週からの増減	第51週	前週からの増減
インフルエンザ	30	10	10	2.83	8.33	20.00	29.17	↗	23.64	↗
RSウイルス感染症	-	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.08	↓
咽頭結膜熱	3	1	-	9.25	10.25	9.25	9.00	↓	3.09	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-	1.00	3.00	1.75	1.25	↓	3.04	↓
感染性胃腸炎	20	12	-	2.25	1.25	2.25	5.00	↗	9.92	↗
水痘	2	1	1	0.00	0.25	0.25	0.00	↓	0.19	↓
手足口病	5	2	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.57	↓
伝染性紅斑	2	1	-	1.75	2.00	1.50	0.25	↓	0.74	↓
突発性発しん	-	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.36	↓
ヘルパンギーナ	6	2	-	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.21	↗
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.06	↗
基幹定点からの届出状況	該当なし									
インフルエンザ入院サーベイランス	該当なし									
全数報告(かっこ内は本年の累積数)	該当なし									
※警報域 : 太文字で赤色の塗りつぶし, 注意報域 : 太文字で黄色の塗りつぶし										

注意すべき感染症

○ 咽頭結膜熱

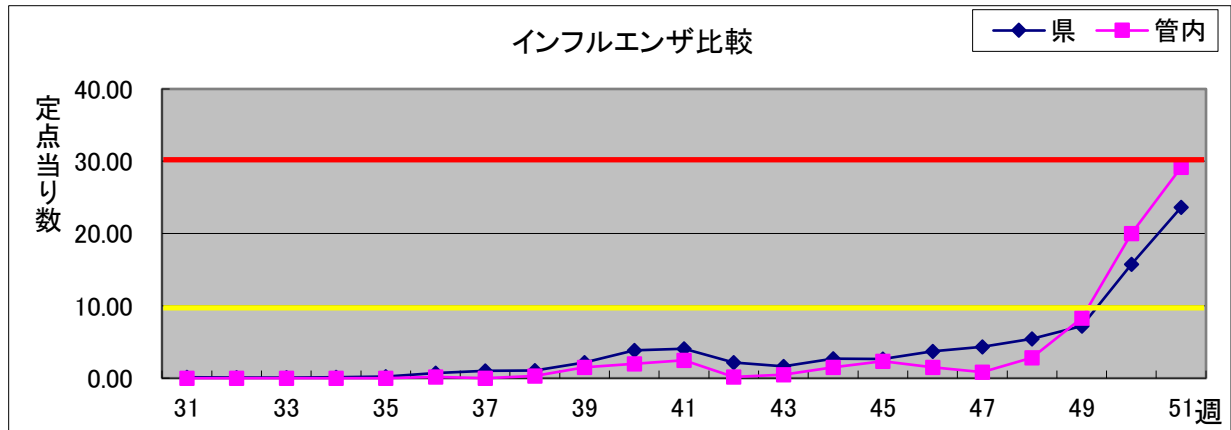
今週の伊集院保健所管内における咽頭結膜熱の報告数は、先週の37人（定点当たり 9.25）より1人少ない36人（9.00）でした。年齢別では、1歳（12人）、3歳（7人）、2歳（5人）、6歳（4人）、6-11ヶ月（3人）、4・5歳（各2人）、10-14歳（1人）の報告でした。

管内は、15週連続で、咽頭結膜熱流行発生警報継続中で、県の報告数も警報基準に達しています。6歳以下が9割を占めているため、乳幼児を預かる保育所等は要注意です。



○インフルエンザ 注意報

今週の管内におけるインフルエンザの報告数は、先週の120人（定点当たり20.00）よりさらに増加し、55人多い175人（29.17）で、警報基準の開始値（30）にほぼ達しています。鹿児島県全体のインフルエンザの報告数も、先週の1434人より717人多い2151人（23.64）で県全体もさらに増加しています。管内の年代別では、10-14歳が32人（18.3%）、8歳が24人（13.7%）、9歳が20人（11.4%）の順に多く、特に小学生、中学生の年代で感染が広がっています。また、1歳未満での4人の報告や70歳以上でのインフルエンザでの入院報告もあり、特に乳幼児、高齢者などが重症になりやすいため注意が必要です。



【インフルエンザの感染予防対策】

- ★ 咳エチケットを徹底しましょう。また、咳などをしている人にマスクの着用をお願いしましょう。
- ★ 液体石けんを用いた正しい手洗いを励行しましょう。特に、外出後や咳・くしゃみを手で押さえた後、顔（眼、鼻、口の粘膜）を触る前は、手指衛生を徹底しましょう。インフルエンザウイルスにはアルコール製剤による手指衛生も効果があります。
- ★ 人混みや繁華街への外出を控えましょう。やむを得ず人混みに入る場合は、不織布のマスクを着用することも1つの防御法です。
- ★ 部屋は適度な湿度を保ちましょう。
- ★ 十分な休養とバランスのとれた栄養を摂りましょう。

学校は冬休みになり、年末年始の帰省もあるため、インフルエンザの流行がさらに拡大することが予想されます。基本的な対策(石けんによる手洗い、手指や環境の消毒、咳エチケット等)を徹底し、感染防止に努めてください。具合が悪い場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

最近御相談の多い《疥癬:かいせん》とは？

ダニの一種である「ヒゼンダニ」がヒトの皮膚に寄生しておこるかゆみの強い皮膚病です。直接的に肌から肌、または、衣類やリネン等を介して間接的にヒトからヒトへ感染します。疥癬には通常疥癬と角化型疥癬（ノルウェー疥癬）があり、通常疥癬で寄生するヒゼンダニの数は数十匹以下ですが、角化型疥癬では100万～200万匹であり、その感染力は強く、集団感染を引き起こす可能性あり、接触感染予防策が必要です。

早期発見・早期治療が重要になるため、疥癬の感染を疑ったら、すぐに皮膚科を受診し、正しい診断を受けてください。

参考：高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版（2019年3月）